

# 「DIALOG IN THE DARK 2017 SAGA」

## 体験児童効果測定アンケート集計結果

2018年3月

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

## 1 開催概要

日程 2017年10月15日～22日

場所 サンシティビル（佐賀市神野2-1-3）

体験参加者 733名

- ・小学校向けプログラム全14回500名（小学校7校の4年生児童471名、教員29名）
- ・一般向けプログラム全16回233名

## 2 効果測定実施

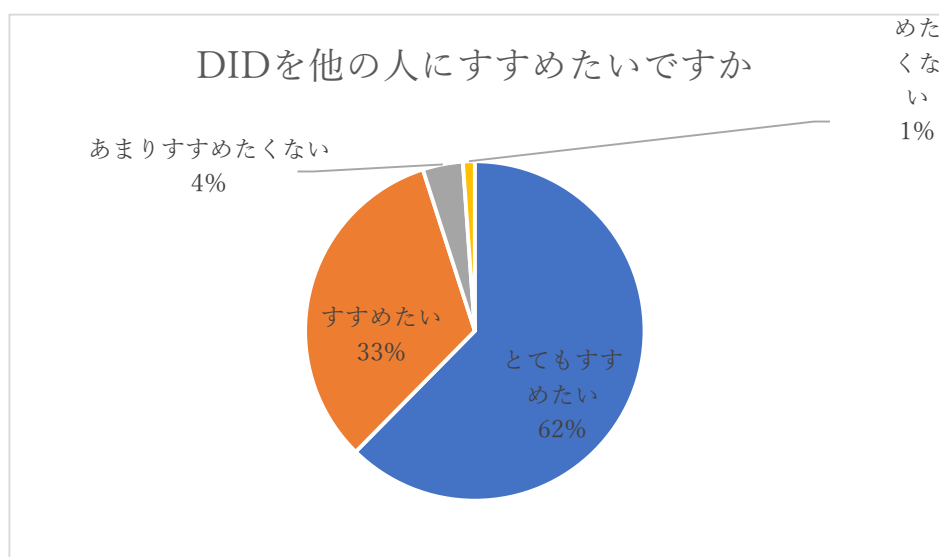
小学生向けプログラムの体験児童及び担任教員に対して体験前後でアンケート調査を実施。

児童のアンケート回答総数 体験前466名、体験後458名

## 3 体験児童の効果測定アンケート結果

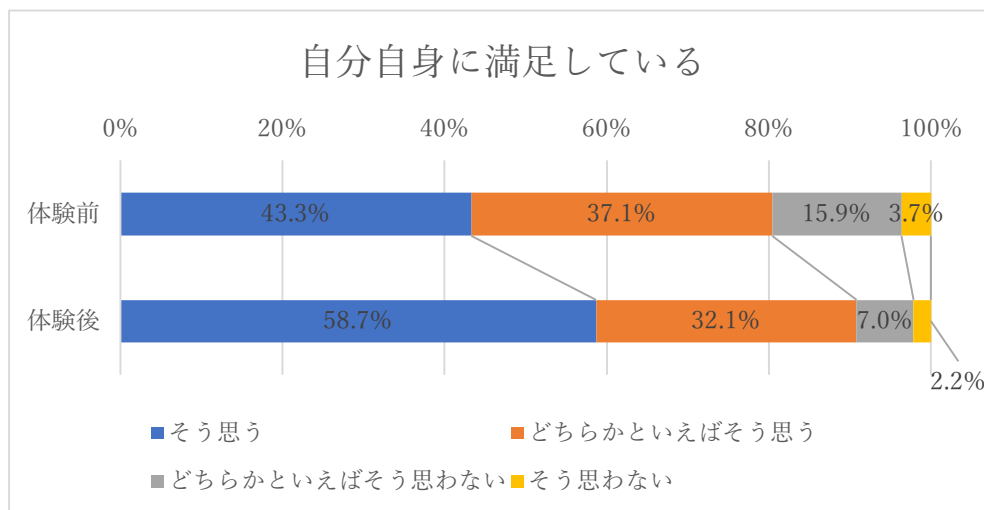
体験前後で自尊感情、愛他心、自分とは異なる特徴や文化を持つ人への意識、障害者に対する意識等についての変化の有無を測定した。また、体験後にDIDを他者にすすめたいかどうかについてのアンケートを行った。

### (1) DID体験の推薦度



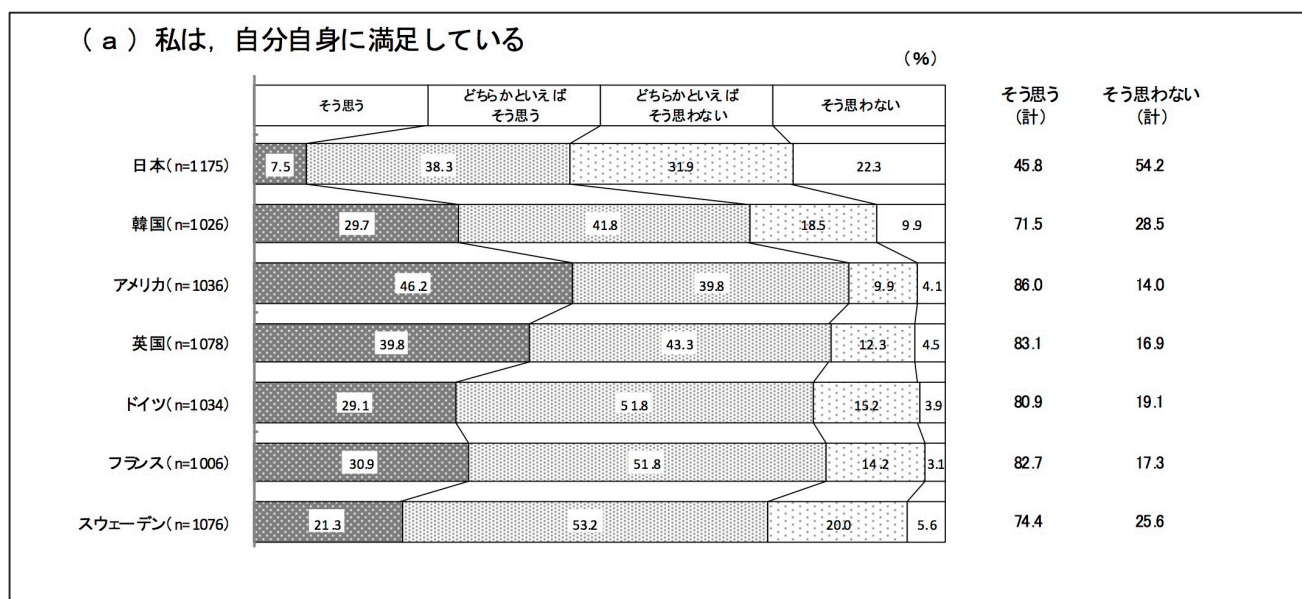
体験児童の95%が、ダイアログ・イン・ザ・ダークの体験を他の人にすすめたい（「とてもすすめたい」＋「すすめたい」と回答しており、他者と共有したいと感じられる印象的な体験であったことがわかる。

(2) 自尊感情（自分自身への満足度）



体験前後で、自分自身に満足している（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した児童の割合が、80.4%から90.8%に10ポイント増加している。

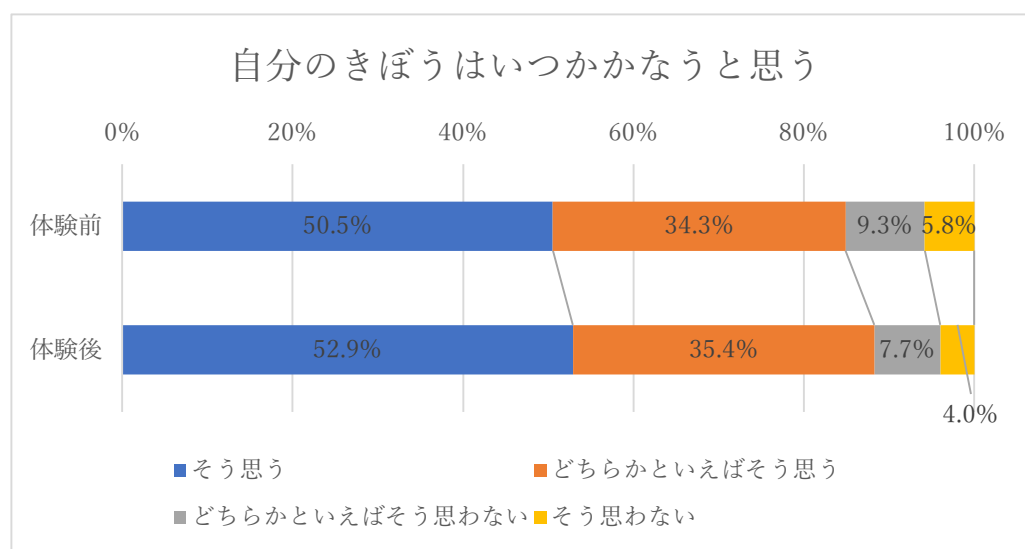
なお、「平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（内閣府）によると、「自分自身に満足している」との問いについて、「そう思う」との回答が45.8%、「そう思わない」との回答が54.2%であり、諸外国と比較して、日本の若者の自尊感情が低いことが指摘されている。



(同調査報告書6頁より引用 [http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf_index.html))

この点、同調査は、各国満13歳から満29歳までの男女を対象としており、本件体験児童とは年齢域が異なるため単純な比較はできないが、DIDの体験により、自尊感情（自分自身への満足度）が向上したことは、教育効果として着目すべき点である。

## (2) 自己効力感



体験前後で、自分のきぼうはいつかかなうと思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した児童の割合が、84.8%から88.3%に5ポイント増加している。

なお、「高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-」（平成27年8月、独立行政法人国立青少年教育振興機構。

<http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/98/File/gaiyou.pdf>）によると、「自分の希望はいつか叶うと思う」と回答した日本の高校生の割合は67.8%であり、他国（米国83.9%、中国80.7%、韓国82.6%）と比較して低いことが指摘されている。

同調査は高校生を対象にした調査であり、本件体験児童とは年齢域が異なるため単純な比較はできないが、DIDの体験により、自分の希望が叶うと感じる自己効力感が向上したことは、教育効果として着目すべき点である。

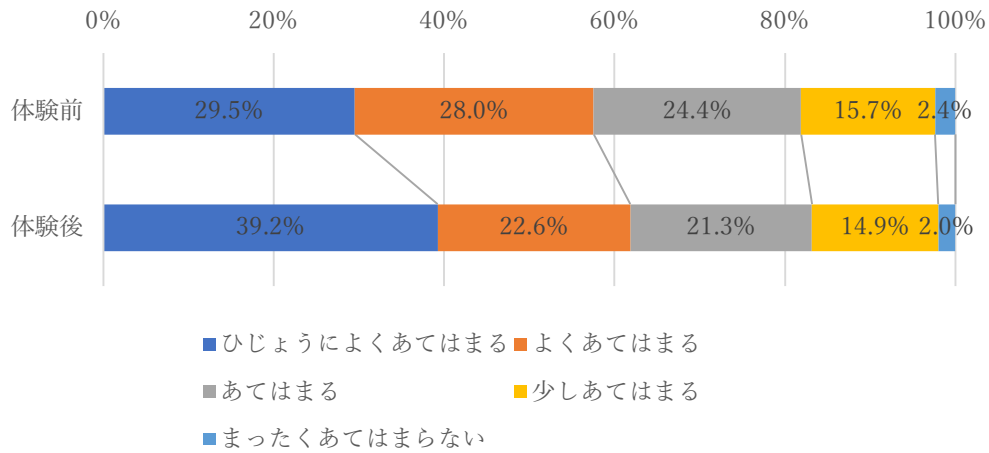
## (3) 他者への思いやり、共感性

「どんな理由があっても、いじめをしてはいけない」、「こまっている人を見たら、たのまれなくてもたすけてあげるべきだ」との質問に対しては、体験前後で有意な変化はみられなかった。

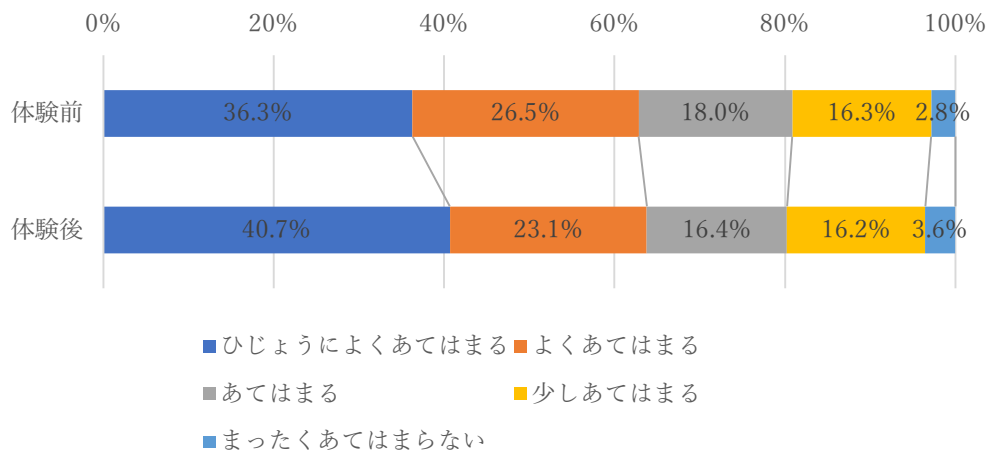
これは、体験前の段階で「そう思う」（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）との回答が、それぞれ97.6%、97.4%と高水準であったためである。

「相手のよろこぶことをしてあげたくなる」、「相手がよろこんでいると自分もうれしくなる」、「どうすれば相手によるこんでもらえるかを考えたい」という他者の喜びに共感をする情動知能（EQ）に関する質問については、いずれも体験後に「ひじょうによくあてはまる」と回答した児童の割合が増加している。日常とは異なる暗闇において運動会という楽しみの体験を共有したことにより、周囲と喜びを分かち合うことについての感度が向上したものと推察される。

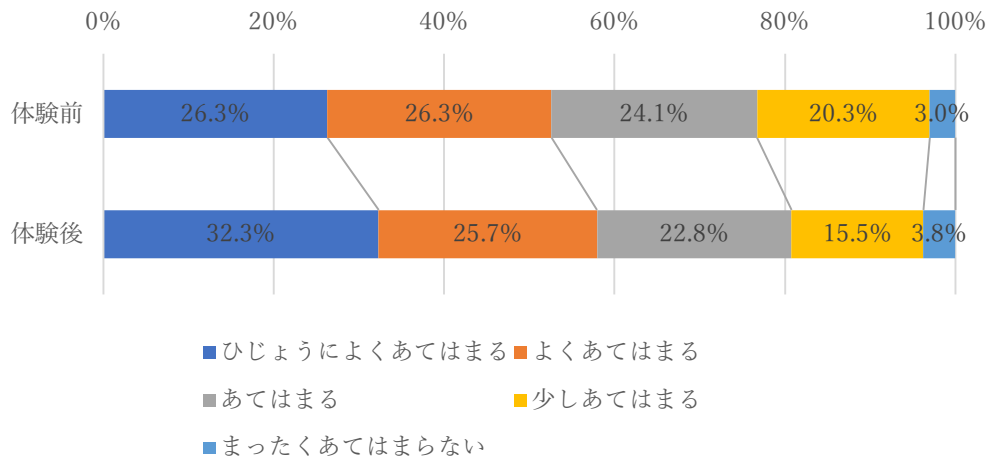
### 相手のよろこぶことをしてあげたくなる



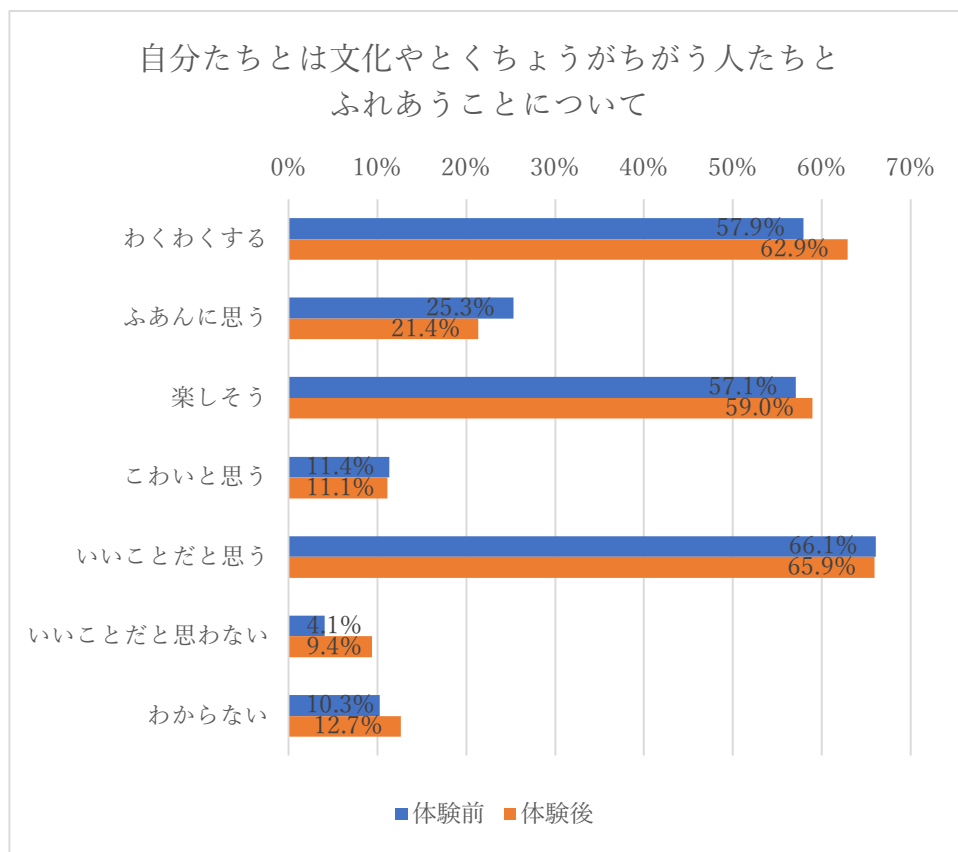
### 相手がよろこんでいると自分もうれしくなる



### どうすれば相手によろこんでもらえるか考えたい



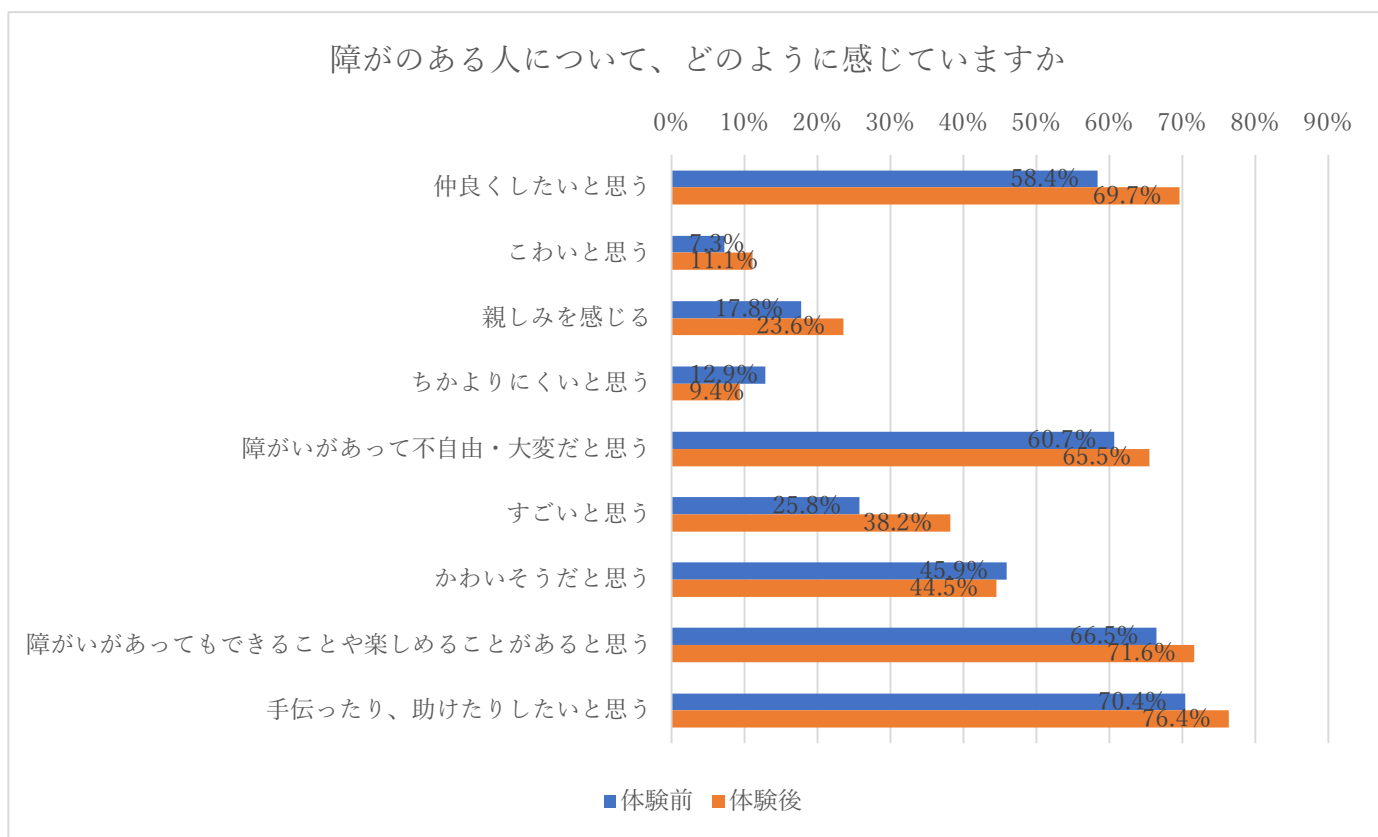
(4) 自分とは文化や特徴が異なる人への認識（多様性についての意識）



体験前後で、「わくわくする」、「楽しそう」と肯定的な印象をもつ児童の割合が増加し、「ふあんに思う」、「いいことだと思わない」と否定的な印象をもつ児童の割合が減少している。

視覚障がい者のアテンドと接することで、自分と異質の存在についても肯定的に受け止める意識が育まれたものといえる。自由記載の感想文からも、そのことがうかがえる。

## (5) 障がい者への意識



体験前後で、「仲良くしたいと思う」、「親しみを感じる」と回答した児童の割合が増加し、「ちかよりにくいと思う」と回答した児童の割合が減少していることから、視覚障がい者のアテンドと実際に触れ合う体験を通じて、障がい者との心理的距離が縮まり、より身近な存在として障がい者の存在を感じるようになったといえる。

また、暗闇体験によって、視覚を使わないことのチャレンジを体験したことで、「障がいがあって不自由、大変だと思う」との回答が増加したが、同時に「障がいがあってもできることや楽しめることがあると思う」との回答も増加しており、障がい者について制限がありながらも、できることがあるという印象をもつ児童が多かったものと思われる。

## 4 教員への効果測定アンケート結果

体験前後で、児童の言動（助け合い、思いやり、けんか、感謝の言葉、粗暴な言葉、不登校、欠席、非協力、情緒不安定、リーダーシップ、面倒見など）の頻度についての変化を調査したが、今回の調査では有意な変化は測定できなかった。

以上